

## はな きぎた 花の木北遺跡 (本発掘調査B)

**所在地** 豊川市大木町地内  
(北緯34度51分34秒 東経137度24分48秒)

**調査理由** 道路改良工事(一般国道151号一宮BP)

**調査期間** 令和3年5月～9月

**調査面積** 2110㎡

**担当者** 堀木真美子・早野浩二・池本正明



調査地点 (1/2.5万「新城」)

**調査の経過** 調査は愛知県建設局東三河建設事務所道路建設課による道路改良工事(一般国道151号一宮バイパス)に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じた委託事業として実施した。遺跡は、令和元年度の本発掘調査Aで確認され、新規に登録された弥生時代の遺跡である。

**立地と環境** 遺跡は本宮山麓から広がる扇状地の末端、西原台地の縁辺に立地する。付近の標高は約50mである。谷を隔てた台地上には昨年度、愛知県埋蔵文化財センターが本発掘調査Bを実施した花の木遺跡・花の木古墳群が立地する。花の木遺跡は弥生時代中期後葉から後期に続く集落で、数棟の大型竪穴建物も確認されている。花の木古墳群は7基の方墳が確認される古墳時代中期前半を中心とする古墳群で、玉類や鉄器類が豊富に出土している。その他、周辺には鍬水B遺跡、宝陵高校遺跡等、弥生時代の遺跡が数多く分布する。

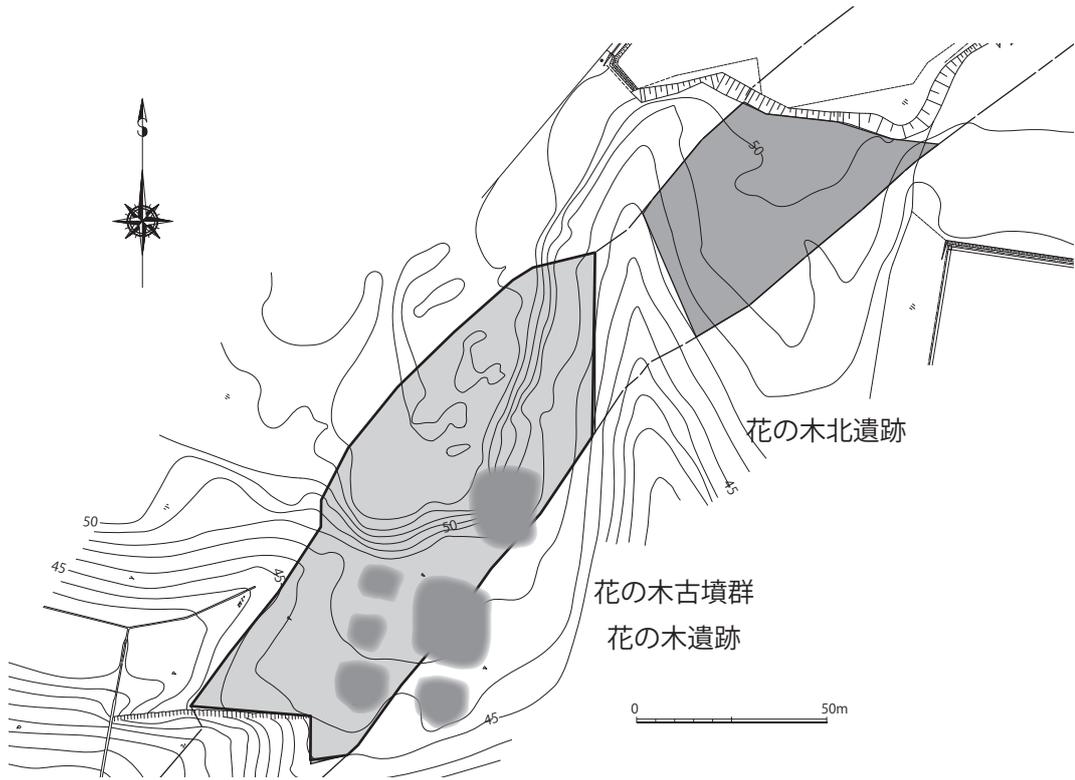
**調査の概要** 今年度の発掘調査においては、弥生時代中期後葉の竪穴建物3棟と土器棺、古墳時代中期前半の竪穴建物2棟を確認した。これらの遺構は標高50mの等高線付近から上位の平坦面上に分布する。

**弥生時代中期** 弥生時代中期後葉の竪穴建物はいずれも4m前後の規模で、やや不整な長方形、方形を呈する。011SIは南西隅付近で細頸壺が出土した。020SIは竪穴のほぼ中央に広範囲の焼土面、その周囲に硬化した床面を確認した。021SIは床面付近に炭化材と焼土塊が検出された。

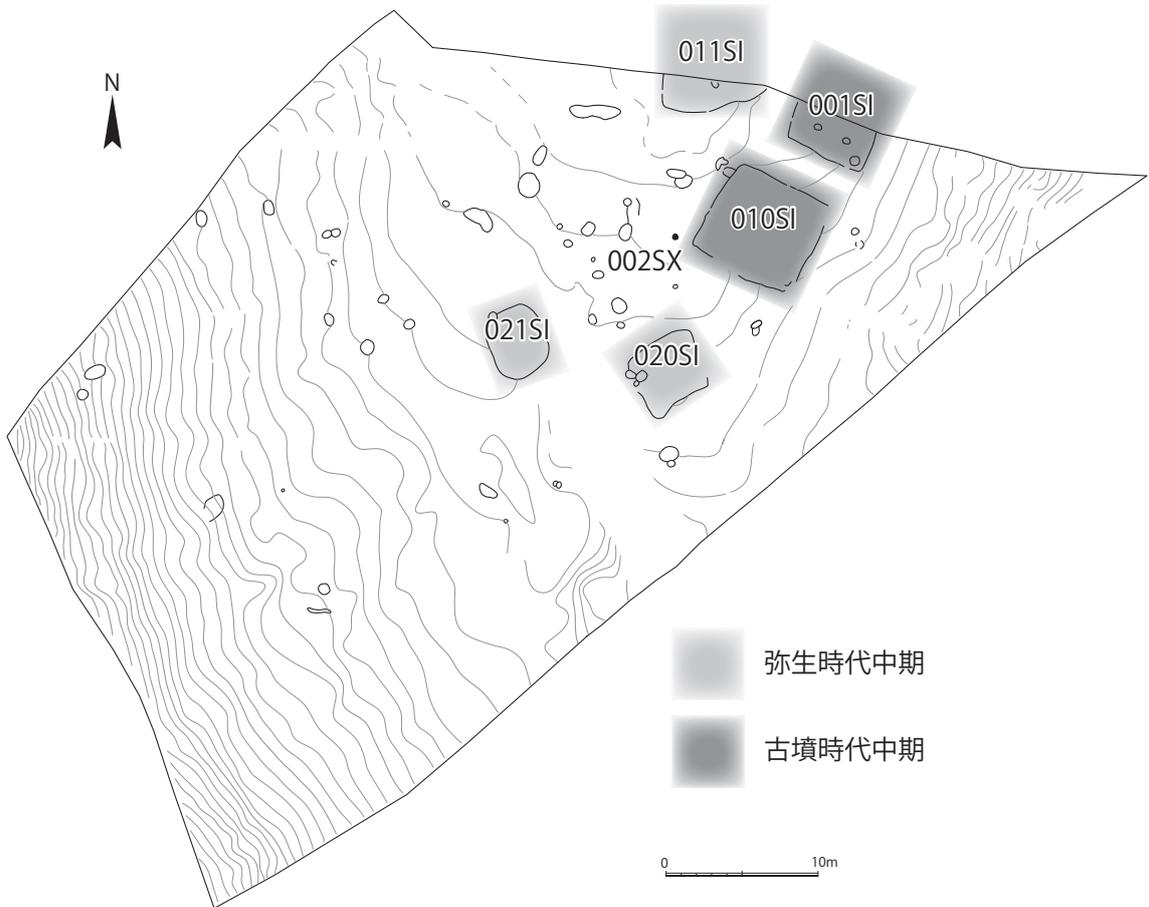
弥生時代中期後葉の土器棺002SXは体部中位を大きく打ち欠いた太頸壺を棺身として横位に埋設し、別個体の壺の体部片を被せて棺蓋としていた。棺身とした太頸壺の口縁部は板状の礫で塞がれていた。

**古墳時代中期** 古墳時代の竪穴建物は残存状況が特に良好であった。南半部を調査した001SIは一辺約6mの規模で、硬化した床面、主体穴、壁周溝が明瞭に確認された。覆土中からは、土師器高杯、台付甕、鉄製品等の遺物が散在して出土した。ほぼ全形が判明する010SIは一辺約7mの方形で、地床炉、硬化した床面、主体穴、壁溝が明瞭に確認された。遺物は下層から床面付近にかけて、土師器(宇田型甕を含む)台付甕、平底甕、有段口縁壺、鉢、(大型高杯を含む)高杯等が多く出土した。竪穴建物の南東隅には編物錘ともされる細長い自然石が集積されたような状態で出土した。

**まとめ** 弥生時代中期後葉の竪穴建物は花の木遺跡の弥生時代中期後葉から後期の集落に続く集落を構成する遺構群で、同時期の集落の景観や構造、その変遷を明らかにするための好適な事例である。古墳時代中期前半の竪穴建物は花の木古墳群の造営に対応する集落の一つを構成する遺構群と思われる。特に大型竪穴建物を含めて集落と古墳の関係が把握できる事例として重要である。(早野浩二)



調査区配置図



遺構配置図



調査区 全景



竪穴建物011SI 弥生土器出土状況



竪穴建物020SI 床面



土器棺002SX 検出状況



土器棺002SX 調査状況



竪穴建物001SI 検出状況



竪穴建物001SI 土層断面



大型竪穴建物010SI 調査状況



大型竪穴建物010SI 遺物出土状況



大型竪穴建物010SI 遺物出土状況(土師器)



大型竪穴建物010SI 遺物出土状況(自然石)



大型竪穴建物010SI 主柱穴土層断面



大型竪穴建物010SI 完掘状況